

国語科学習指導案

1. 単元名 おもいうかべながら よもう 「くじらぐも」

2. 目指す児童像「自己の成長を実感し、主体的に学び続ける子」に関わって

この単元では場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することが求められている。「くじらぐも」は、児童と同じ一年生が主人公という共通点のある物語である。その特性を生かして、「子どもたちはどんなお話をしているのかな。」と登場人物の「吹き出し」を考えて書く言語活動を通して、想像することを楽しむことができる単元構成とした。本学級の課題として、場面の様子を捉えて読む力には個人差がある。そのため、問いを追究する場面では、想像を膨らませる手立てや学習形態を複数用意する。児童に応じた手立てを用意し、児童自らが主体的に学び方を選ぶことで、どの児童も場面の様子を捉えて読み、豊かな想像へとつなげることができるようにする。

3. 単元の目標

- ・かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。
(知識・技能(1)ウ)
- ・語のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読することができる。
(知識・技能(1)ク)
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
(思考・判断・表現(1)エ)
- ・積極的に想像力を広げて物語を読み、これまでの学習を活かして想像したことを友達に伝えようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

4. 視点について

視点1：個の学びと教材をつなぐ構成

○自己の成長を実感する振り返り

登場人物の行動を具体的に想像するために、「吹き出し」を考える言語活動を設定する。毎時間の終わりに、書いた吹き出しをもう一度読み直し、友達の考えの中で「いいな。」と思ったところを書き足す場を設ける。吹き出しに書かれた言葉が増えたり変わったりする経験を通して、子どもたちの行動をより詳しく創造することができた実感をもてるようにする。

視点2：個々の学びをつなぐ教師の関わり

○学びを深める焦点化

「どこからそう考えたの。」と問うことで、吹き出しの内容が、「うみのほうへ、…」「うたをうたいました。」などの叙述に基づいていることに気付くようにする。また、これらの視点の変化や空の広さから、子どもたちが楽しく過ごしたことを想像できるようにする。

5. 単元構成（8時間扱い）

①～②

中川李枝子さんは「さんぽ」の歌詞を書いた方だよ。「くじらぐも」はどんなお話なのかな。

1年2組だって。私
たちと同じ学年だ。

楽しそう。くものく
じらにのってみたい。

中央小にくものくじらが現れたら…！？
想像してみよう。

すぐに「おうい。」っ
て呼びかけたいな。

空の上から、お家を
探してみたいな。

想像を広げたら、「くじらぐも」がもっと
楽しく感じるね。もっと想像してみたいな。

③～⑧（本時⑥）

「そうぞうのひろば」で吹き出しに書こう。

子どもたちは何と言ったのかな。

「そうぞうのしてん」
をめぐったら、くじらぐ
もと体操している場面を
想像できたよ。

くものくじらは、あの
マンションより大きい
よ。だってクラス全員を
乗せてるんだよ。

そうぞうのしてん

写真に書き込み

「まるいわになって」っ
てどういうことだろう。友
達とわになってみよう。

空から見た町、とって
も小さく見えるよ。学校
も小さく見えたのかな。

動作化

まち・むらの写真

想像を広げてみたら、お話がもっと楽しく感
じるね。想像したことを友達と伝え合ったら、
「みんなでくじらぐも」のできあがり！

6. 本時の展開 (6/8)

<本時の目標>

第四場面の吹き出しを考えることを通して、子どもたちがくものくじらに乗って空を旅する様子を詳しく想像する。

(思考・判断・表現 Q1) エ

学習活動	教師の意図と関わり
<p><前時までに獲得した見方や考え方> 前時までで、くものくじらに乗るまでの子どもたちの「乗りたい!」という気持ちを、具体的に想像している。</p> <p>「そうぞうのひろば」で、子どもたちの言葉を想像して吹き出しに書こう。</p>	<p>子ども主体になる教材化</p> <p>授業の導入に「みんなでトーク」という、近くの友達と話し合う活動を取り入れる。この場では、子どもたちがくものくじらに乗った時の一言目を友達と話し合う。「みんなでトーク」の続きを引き出すことで、どの児童も本時の課題である「子どもたちがくものくじらの上で、何と言ったのか。」について考えることができるようにする。</p>
<p>みんなでトーク  「くものくじらにやっと乗れた。一言目に何と言う?」</p> <p>子どもたちは、くものくじらの上で何と言ったのかな。</p>	<p>子ども主体になる交流の場の設定</p> <p>「そうぞうのひろば」では、一人で考えたい、友達に聞きたいという、自分に必要な学び方を選べるように働きかける。また、読み落としそうな言葉や登場人物の言動を考えさせたい叙述に着目できるように、ヒントカードやICTによる資料を用意しておく。これらの手立てによって、どの児童もくものくじらの上に乗っている様子を捉えて読むことができるようにする。</p>
<p>個別探究・協働探究 </p> <p>〈そうぞうのしてんカード〉</p> <p>どんな景色を見たのかな。 何をしてるのかな。</p> <p>〈写真カード〉 </p> <p>〈ぬり絵〉  </p> <p>〈くじらぐもアニメーション〉 </p> <p>むらってなんだろう。カードをめくってみようかな。</p>	<p>・全体交流では、「どこからそう考えたの。」と問い返すことで、本文の叙述に立ち返ることができるようにする。</p> <p>・吹き出しに考えを書き足し、完成した吹き出しを絵本に貼ることで、目に見える形で学びの積み重ねを実感することができるようにする。</p>
<p>みんなでトーク  「子どもたちは、何と言ったのかな。」</p> <p>「やっとくものくじらに乗れたよ。」</p> <p>「海は広いな、大きいな。」</p> <p>全体交流</p> <p>「わたしのお家があった。」</p> <p>「海がキラキラしている。」</p> <p>3場面で、頑張ってくものくじらに乗ったから。</p> <p>どこからそう思ったの。</p>	<p><学びのつながりを実感した姿></p> <p>子どもたちがしたことや言ったことを「うみのほうへ」「うたをうたいました。」などの叙述に即して想像し、吹き出しに書き表したり、友達に伝えたりする姿。</p>
<p>子どもたちが、楽しく過ごしている様子を想像できたね。</p> <p>「まちが見えるよ。わたしのお家もあるかな。」</p> <p>「くものくじらは、どこまで行くのかな。一緒に空を泳げて、楽しいな。」</p>	

<学びのつながりを実感した姿>

子どもたちがしたことや言ったことを「うみのほうへ」「うたをうたいました。」などの叙述に即して想像し、吹き出しに書き表したり、友達に伝えたりする姿。

国語科学習指導案

1. 単元名 自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう 「お手紙」

2. 目指す児童像「自己の成長を実感し、主体的に学び続ける子」に関わって

この単元では、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことが求められている。学級の児童は「ふきのとう」、「スイミー」で場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができるようになってきている。その一方で、文章の内容と自分の体験を結び付けることができる子はまだ限られている。そこで、登場人物に手紙を書くという活動を今回の言語活動として設定する。登場人物の行動と自分とを比べ、同じところや違うところを手紙に表す活動を通して、文章の内容と自分を結び付けて感想をもつことができるようにする。

3. 単元の目標

- 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる (知識・技能 (1) オ)
- 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。 (知識・技能 (1) カ)
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 (思考・判断・表現 C (1) エ)
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。 (思考・判断・表現 C (1) オ)
- 文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもち、手紙に書く活動に、意欲的に取り組もうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

4. 視点について

視点1：個の学びと教材をつなぐ構成

○子ども主体になる教材化

単元の初めでは、「手紙」をもらったときの嬉しかった経験を振り返る。その上で「お手紙」を読み、登場人物へお手紙を書きたいという思いを生む。

視点2：個々の学びをつなぐ教師の関わり

○学びを深める焦点化

叙述を基に考えることができるよう、サイドラインを引く活動を位置付ける。そして、協働探究の場では、同じ叙述を選んでいるのに、対象となる登場人物や自分との比べ方、理由が異なっている児童の考えを取り上げてつなげたり、全体に広げたりする。この関わりによって、友達と登場人物の行動に対する捉え方が違うことに気付き、自分と登場人物とをもう一度重ねて考えることができるようにする。

5. 単元構成 (14時間扱い)

自分と比べて読み、登場人物に手紙を書こう。

①～②

がまくんとかえるくんはどんな様子かな。

「のぞきました」だと、「早く来てほしい」気持ちが伝わってくるね。

がまくんの2回目の「ああ。」は、「親友」と言ってもらえて感動したのかな。

がまくんとかえるくんの様子が分かったね。

③～⑫

自分だったら、どうするかな。(本時⑪)

がまくんはお手紙を待ち続けていてすごいよ。自分だったら、諦めちゃうな。

かえるくんは、がまくんのために手紙を書いてやさしいと思った。自分だったらなぐさめるだけかもしれない。

かえるくん、がまくんと自分の同じところや違うところを見付けることができた。

⑬～⑭

できるようになったことを振り返ろう。

「おちば」では、二人とも同じことを考えているね。私も友達のために何かをしてあげることがあるよ。

がまくんやかえるくんがどのように行動しているのが分かった。他の本でも「自分だったら」と考えてみたいな。

国語科学習指導案

1. 単元名 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう
「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

2. 目指す児童像「自己の成長を実感し、主体的に学び続ける子」に関わって

学習指導要領では、本単元の読むことの内容について、「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること」(Q1ウ)とある。この中でも「目的を意識すること」について特にフォーカスして授業を構成していく。今回の目的は、「食べ物のひみつブック」を作ることではなく、読み手に伝わるように表現することであると捉える。本学級の児童は、説明的文章を作ることが初めてのため、1学期の「こまを楽しむ」の学びをつなげて、国分牧衛さんの説明の工夫を読み取り、説明的文章を書けるようになることで成長を実感する姿をねらう。

3. 単元の目標

- ・比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し、使うことができる。(知識・技能(2)イ)
- ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。(知識・技能(3)オ)
- ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思考・判断・表現B(1)イ)
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思考・判断・表現Q(1)ウ)
- ・目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見付けたり、それらを意識して文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫を生かした文章を書こうとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

4. 視点について

視点1：個の学びと教材をつなぐ構成

○子ども主体になる教材化

単元に2つの言語活動を設定する。第一次では、「説明文組立て分析シートづくり」、第二次では、「食べ物のひみつブックづくり」を行う。本題材を分析的、批判的に読むことで、自分が説明文を書くことにつなげていく。読むことと書くことをしっかり分けることで、今何を身に付けるかを学習者も授業者も明確にする。

視点2：個々の学びをつなぐ教師の関わり

○学びを深める焦点化

焦点化のために生成 AI を活用する。第一次の読むことでは、「ChatGPT」を用いて、国分さんの比較材料を生成する。第二次の書くことでは、自分が書いた文章を「プログルラボ」を用いて、推敲していく。どちらの場合でも、AIが生成した言語表現を鵜呑みにするのではなく、批判的に検討し、活用できるようにする。

5. 単元構成 (12時間扱い)

第一次「すがたをかえる大豆」読①～⑥

説明文組立て分析シートを作り、
筆者の説明の仕方の工夫を見付けよう。

筆者の国分牧衛さんは、
どんな説明の工夫をしたのかな。

まとまりごとの段落

中心となる文と
語を見つけると
分かりやすい。

例をあげる順番

単純なものから
複雑なものだと
分かりやすい
(本時④)

内容にあった例

そのまま・加工・取り
入れ時期など種類ごと
だと分かりやすい。

まとまりごとに段落を分けたり、例を挙げる順序
を考えたりするなど、文の組立てについて
気を付けるとよい説明文が書ける。

国分さんのような分かりやすい文章を書きたい。



第二次「食べ物のひみつを教えます」書⑥～⑫

食べ物のひみつブックを作ろう。

調べたことを、どんな組立てで
書くと読み手に伝わるかな。

まとまりごとの段落

はじめ・中・
終わりで書く。

例をあげる順番

身近な順番に
しよう。

内容にあった例

伝えたいこと
に合わせて。

「説明文組立て分析シート」を使うと読み手に
伝わる説明文を書くことができたよ。

友達と完成したブックを読み合って
書き方と内容面でよかったところを伝え合うよ。

6. 本時の展開 (4/12)

<本時の目標>

事例の順序について話し合うことを通して、筆者が伝えたいことが何なのかに気付き、読者の分かりやすさを想定することについて考えようとしている。(思考・判断・表現(C1)ア)

学習活動	教師の意図と関わり
<p><前時までに獲得した見方や考え方> 読者に伝わるための目的を意識して、それぞれの段落の中心となる語や文を見付けている。</p>	
<p style="text-align: center;">筆者の国分牧衛さんは、どんな説明の工夫をしたのかな。第2弾！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">国分牧衛さんの事例の順序</p>  <p>①豆まき ②煮豆 ③きな粉 ④豆腐 ⑤納豆 ⑥味噌 ⑦醤油 ⑧枝豆 ⑨もやし</p> </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">Chat GPTの事例の順序</p>  <p>①枝豆 ②もやし ③豆まき ④煮豆 ⑤豆腐 ⑥納豆 ⑦味噌 ⑧醤油 ⑨きな粉</p> </div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">どちらの順序の方が読み手に伝わるだろうか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>国分さんの最初は大豆の形そのままだね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>Chat GPTの最初はなじみのある枝豆だね。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p style="color: red; font-weight: bold;">車のコントローラー</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>似ているもの同士でひとつの例になっているよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>少しずつ変わった特徴のものを紹介しているのかな。</p> </div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;">あなたにとって国分さんと Chat GPTのどちらの順序の方が分かりやすいだろうか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>もやしで「え!？」ってなるから国分さんのが好き。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>大豆の有名度順</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>手の加え方の難易度順</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>大豆の有名度順</p> </div> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">伝えたいことに合った例を選んで、読み手のことを考えて順序を考えるといいね。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>学習の振り返り</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>順番にもこだわって書きたいな。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>食べ物のひみつブックに生かせそう！</p> </div>	<p style="text-align: center;">子ども主体になる交流の場の設定</p> <p>筆者の国分牧衛さんの文のよさを見つけるために、生成した「ChatGPT 版すがたをかえる大豆」と本文を比較する。基本的には、筆者の説明の工夫を見つけていくが、ChatGPTにも伝えたい目的があることを見つけるかもしれない。それぞれの目的を明らかにし、今後の「食べ物のひみつブック」を作る際に、自分なりの目的意識がもてるよう、批判的に検討できるようにしたい。</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">自己の成長を実感する振り返り</p> <p>年間を通じて padlet に振り返りを記入している。内容面も学び方も書く中で、学習ログとして蓄積している。1学期の「こまを楽しむ」の学びを見返すことで、系統的に説明文教材での学びを振り返ることができる。</p> 

<学びのつながりを実感した姿>

国分さんと ChatGPT の2つの文章を読み比べて、どう書くと読み手が分かりやすいか考える姿。

国語科学習指導案

1. 単元名 気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう「ごんぎつね」

2. 目指す児童像「自己の成長を実感し、主体的に学び続ける子」に関わって

学習指導要領には、本単元の読むことの内容について「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像すること」(Q1)エと書いてある。この中でも、「場面の移り変わり」に焦点を当てて授業を構成していきたい。本学級の児童は、登場人物の心情を想像し、自分の言葉で表現することが得意である一方、「本文に基づいて心情を読み取る」ということを苦手としている子が多くいるため、自分の感想を心情曲線で示すと共に、参考にした文についても触れていくことで、本文を基にして登場人物の心情の変化に着目できるようにする。

3. 単元の目標

- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。(知識・技能(1)オ)
- ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりとは結び付けて具体的に想像することができる。(思考・判断・表現(Q1)エ)
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思考・判断・表現(Q1)オ)
- ・進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

4. 視点について

視点1：個の学びと教材をつなぐ構成

○子ども主体になる交流の場の設定
デジタル教科書に心情曲線や根拠になった文を書き溜め、その違いから気になる心情曲線を作成した人との交流を生む。「どうしてそこで気持ちが変わったのか」同じ文章を読んでも読み取る視点が変わると受け取り方も変化するという単元を通して気付くことができるようにする。

視点2：個々の学びをつなぐ教師の関わり

○学びを深める焦点化
導入として物語を読んだ初発の感想に加えて、感じ取った心情をオクリンクプラスの集計機能(キーワード集計)を用いて収集する。集まった心情ワードは単元を通して心情曲線が揺れ動く要因となった文章と共にデジタル教科書内に書き込んでいくことで、心情を表す語彙の獲得につなげたい。

5. 単元構成(12時間扱い)

①～②

「ごんぎつね」って…

- 初めて「ごんぎつね」を読んで、ごんは「良いきつねなのか、悪いきつねなのか」について考えよう。
- 「良い」「悪い」の根拠となった文を交流しよう。

③～⑩

それぞれの場面で感じたことを心情曲線に表そう!

登場人物の心情の変化を本文を基に読み取り、場面ごとの感想を自分の心情曲線として表そう。

⑨ 自分と友達的心情曲線を比べよう。(本時)

ごんは撃たれてしまったけど、気付いてもらえたから自分も嬉しくなった。

ごんを撃ってしまった兵士の気持ちを考えると、この場面は悲劇だと思う。

同じ場面でも注目する文章や見方によって
心情の受け取り方が変わることがある。

⑪～⑫

「ごんぎつね」の結末交流会

これまで読み進めてきた情報や自分自身の心情曲線を振り返って、「ごんぎつね」の結末をどう感じたのか、自分の考えを友達と交流しよう。

ごんはどんなきつねだったのだろう。

最後撃たれてしまったからかわいそうなきつねだと思う。

償おうとしていて、優しいきつねだと思う。

読み取る視点によって受け取り方も変わるんだね。

6. 本時の展開 (9/12)

<本時の目標>

文章を読んで感じたことに基づいて、感想や考えをもち、書き表す。(思考・判断・表現 (I) オ)

学習活動	教師の意図と関わり
<p><前時までに獲得した見方や考え方> 登場人物の発言や行動に着目しながら、各場面における登場人物の心情の変化を捉えつつ、物語を読んだ自分の心情曲線に表すことで、本文に基づいて心情を読み取る方法を確認している。</p> <p>6場面を読んで感じたことを自分の心情曲線として表そう！</p> <p>5場面までの心情曲線や根拠となった文、心情を表す言葉について振り返る。 6場面の音読を一人ずつ行う。</p> <p>自分と友達の心情曲線を比べよう。</p> <p>読み解く根拠となった文にデジタル教科書で線を引く。</p> <p>5場面の終わりと比べて、心情曲線は変化するのかな。</p> <p>くりを持ってきてくれていたのがごんだと分かり撃ったことを後悔している。</p> <p>毎日諦めなければいつか気付いてもらえると思って期待している。</p> <p>6場面の登場人物の心情が分かる文に線を引き、予想した心情とそれを読んで感じたことを心情曲線に表そう。</p> <p>学級のモニター</p> <p>個別交流タイム 心情曲線はどのようになったかな。 似ている→心情を表す言葉はどうなった。 似ていない→線を引いた文は一緒かな。</p> <p>全体交流タイム 2~3人のデジタル教科書画面をテレビに投影し、クラス全体で考える。</p> <p>ごんがうなずいた様子から、最後に気付いてもらえてうれしかったと思う。</p> <p>兵十は撃ってしまった後に、ごんの優しさに気付いて辛かったと思う。</p> <p>同じ場面でも注目する文や見方によって心情の受け取り方が変わることがある。</p> <p>振り返りをPadletに投稿する。 学習を踏まえて再度音読を行う。</p>	<p>子ども主体になる教材化</p> <p>初発の感想をオクリンクプラスで集める際に、子どもたちが読み取った登場人物の心情を「言葉の宝箱」として教室に掲示している。心情曲線に表していく際に、揺れ動いた根拠になる文に線を引くことに加え、登場人物がどのような心情なのか、一人一人が宝箱から言葉を引き出して書き込んでいくことで、デジタル教科書を自分の読みを深めるためのツールとして使用していけるようにしたい。</p> <p>自己の成長を実感する振り返り</p> <p>友達の考えと比較して感じたことや、授業を通して読み深まったポイントなどを振り返りとして自分の言葉でPadlet上に積み重ねていけるようにしたい。</p>

<学びのつながりを実感した姿>

自分の意見と友達の見解を比較し、同じ文章を読んでも違った受け取り方をすることがあることに気付く姿。学習を積み重ねることで、本単元の最後には読み取る視点によって、心情曲線と引用した本文、読み取った心情との間に「揺れ」があることに気付き、多様な読みの可能性を考える姿。

国語科学習指導案

1. 単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう「固有種が教えてくれること」

2. 目指す児童像「自己の成長を実感し、主体的に学び続ける子」に関わって

1学期まで、与えられた課題に対しては、自分が納得いくまで取り組む児童が多いが、自分で問いをもち学習する子は少なかった。そのため、本単元では、自分で学習の計画を立て、4つの分析の視点で交流しながら学習を進めることができるように構成した。また、違う資料を選んだ人や筆者が改稿する前のものと比較することで、自分で選んだ資料の分析により明確な根拠をもつことができるようにしていく。さらに、読むことでつけた力を書くことへつなげていき、1学期で身に付けた「伝える相手によって内容を変えていく」力を伸ばしていきたい。

3. 単元の目標

- 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。
(知識・技能(2)ア(3)オ)
- 引用したり、図表やグラフを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
(思考・判断・表現B(1))
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進み方について考えたりすることができる。
(思考・判断・表現C(1)ウ、C(1)ア)
- 粘り強く文章と図表などを結びつけて読み、学習の見通しをもって、読み取った筆者の工夫を生かして統計資料を用いた意見文を書こうとする態度を養う。
(主体的に学習に取り組む態度)

4. 視点について

視点1：個の学びと教材をつなぐ構成

○自己の成長を実感するふりかえり
単元の始めに自分で資料を選び、計画的に学習を進めていくことで、その時間に分かったことや疑問に思ったこと、もっと調べたいことなどを具体的に振り返り、次の時間にやりたいことを明確にできるようにする。

視点2：個々の学びをつなぐ教師の関わり

○子どもが主体になる交流の場の設定
交流の場を自由に設け、個別→交流→個別と自分が必要な時に交流ができるようにする。また、交流する相手も固定せずに、多くの人の考えを取り入れていけるような席の配置にする。

5. 単元構成 (10時間扱い)

導入

① 1学期環境問題について少し触れたけど・・・日本の固有種の現状について AI に書かせた文と、「残念な生き物図鑑」の作者が書いた文があるよ。2つを読んでどう感じた？
まずは、固有種について知り、筆者の主張と文の構成を確認しよう！



②～⑥

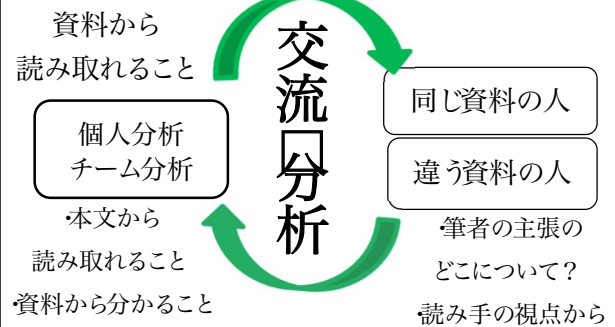
新しく出てきた資料の読み方をマスターして、自分の学習の見通しを立てよう！

読む

本文と資料を分析していこう！

分析していく上で必要になる視点を確認する。

それぞれの資料があることで、どんな効果があるのかな。



2017年に今泉さんが書いた「固有種」との違いから分析できることはなんだろう。(体時⑤)

今度はみんなで変わったところに着目して、さらに効果を明確にしていこう！

資料と共に対応する文もより明確・具体的にすることで自分の主張に根拠をもたせることができる

⑦～⑩

追究してきたことを踏まえて、筆者の主張に対して自分の考えを書こう！

書く

学びを生かそう！

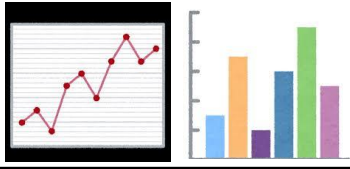

自分で決めた「環境問題」についての意見文を選んだ資料を生かして書く。

6. 本時の展開 (5/10)

<本時の目標>

2つの説明文の比較を通して、文章と資料のつながりや効果について考え、そのよさを実感する。

(思考・判断・表現等 C(1)ウ、C(1)ア)

学習活動	教師の意図と関わり
<p data-bbox="145 533 1018 611" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><前時までに獲得した見方や考え方> それぞれが決めた学習計画に基づいて、資料の効果について分析している。</p> <p data-bbox="119 633 432 667">・前回までの分析結果は・・・</p> <div data-bbox="129 678 970 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">2017年の「固有種が教えてくれること」の本文を今泉さんは書き直したよ。</div> <div data-bbox="129 745 496 813" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 20px;">資料の提示のされ方が違う。</div> <div data-bbox="635 745 1007 813" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">最後の2ページは大きく違う。</div> <div data-bbox="140 824 352 936" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 20px;">2017年度の 資料6・7</div> <div data-bbox="483 824 687 936" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-right: 20px;">2022年度の 資料6</div> <div data-bbox="823 824 1023 936" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">2022年度の 資料7</div> <div data-bbox="140 947 347 1070" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">資料の内容も 違うのかな。</div> <div data-bbox="395 936 746 1104">  </div> <div data-bbox="794 947 1023 1070" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">本文も新しく 追加されている。</div> <div data-bbox="119 1104 1023 1182" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">2017年に今泉さんが書いた「固有種」との違いから 資料だけに着目して・・・分析できることはなんだろう？</div> <div data-bbox="119 1216 528 1373" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・年数の区切りも細かくなっているそこから分かることは・・・ ・2021年のものと読み取れることに大差はなさそうだ。 </div> <div data-bbox="528 1205 1050 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p data-bbox="651 1205 1050 1249">本文と照らし合わせてみて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文に簡単な説明があると、資料の読み取りもしやすい。 ・本文に説明があるのとないのでは、納得感が違う。 ・今泉さんは、そのことに気付いて付けたしたのかも。 </div> <div data-bbox="65 1395 193 1485" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; color: red;"> 学びのコントローラー </div> <div data-bbox="244 1384 339 1485">  </div> <div data-bbox="395 1395 483 1473" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; text-align: center;"> 5-3 ELEGANT </div> <div data-bbox="161 1485 496 1529" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 本文だけに着目して・・・ </div> <div data-bbox="119 1529 560 1731" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年は資料6・7についての説明がないから、資料6・7を見ようとする人は少なそう。 ・本文だけで伝わらなくはないけど・・・ ・21年の方が筆者の思いが伝わるな。 </div> <div data-bbox="576 1529 671 1653" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; text-align: center;"> まなびビューア </div> <div data-bbox="699 1541 1050 1686" style="border: 1px solid black; padding: 5px; color: red; font-weight: bold;"> 本文と資料が結び付いた時に効果を最大限に発揮！ </div> <div data-bbox="119 1765 635 1843" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が今まで分析してきた資料も見比べて何か気が付くことはあるかな？ </div> <div data-bbox="667 1697 1082 1854" style="border: 1px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; color: orange; font-weight: bold;"> 資料とそれに関わる文が近くにある。 </div> <div data-bbox="172 1854 1010 1944" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 資料と共に対応する文もより明確・具体的にすることで自分の主張に根拠をもたせることができる。 </div> <p data-bbox="108 1944 268 1977">学習の振り返り</p>	<p data-bbox="1086 555 1469 667">・単元の最初の方に2017年の文があることを伝え、この時間で提示する。</p> <div data-bbox="1070 712 1469 992" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p data-bbox="1094 745 1374 779">子ども主体になる教材化</p> <p data-bbox="1094 813 1453 981">比較材料を使うことにより、資料があることによる効果や、より効果的にする資料などの使い方について着目しやすくする。</p> </div> <p data-bbox="1086 1037 1469 1193">・2017年度の説明文をクラスルームに配付し、ムーブノートやデジタル教科書に直接貼り付けて書き込んでいく。</p> <p data-bbox="1086 1238 1430 1272">・グループ交流で進めていく。</p> <div data-bbox="1070 1283 1469 1653" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p data-bbox="1094 1305 1337 1339">学びを深める焦点化</p> <p data-bbox="1094 1373 1453 1641">比較する資料を、今まで自分たちで分析してきた視点と同じ視点で読み取ることで、自分が選んで分析してきたものの確信がもてたり、新たな発見ができるようになったりする。</p> </div> <p data-bbox="1086 1664 1469 1731">・個別の活動に戻す前に全体で確認の時間を取る。</p> <p data-bbox="1086 1753 1398 1821">・筆者視点や読み手視点で読み進めていく。</p> <p data-bbox="1086 1854 1453 1977">・資料2～5にも、対応する文のページのレイアウトを変更している部分があるため、そこに気が付くようにしたい。</p>

<学びのつながりを実感した姿>

- ・説明文においての資料の効果について実感することができている姿。
- ・資料と本文の繋がりを実感している姿。

国語科学習指導案

1. 単元名 作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう 「やまなし」

2. 目指す児童像「自己の成長を実感し、主体的に学び続ける子」に関わって

本学級の児童は、これまでに、叙述を基に人物像や物語の全体像を捉えることができるようになってきている。しかし、物語を深く読み、自分なりに「作者からのメッセージ」を考えるような課題探求的な学習には、慣れ親しんでいない。本単元を通して、「作者からのメッセージ」を受け取るために、読み方や追究の仕方を児童が選択・決定し、自由度の高い言語活動の中で生まれた困りや成果を伝え合うことを大切にしたい。考えを伝え合うことに必要感をもち、全体交流によって個の追究がさらに深まる姿を目指す。

3. 単元の目標

- ・ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 (知識・技能(1)ク)
- ・ 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 (思考・判断・表現(1)エ)
- ・ 粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうする態度を養う。

4. 視点について

視点1：個の学びと教材をつなぐ構成

○子ども主体になる教材化

「やまなし」という単元を通して、宮沢賢治(作者)からのメッセージを、自分なりに考えることを言語活動に設定する。「作者は私にこう言っている」を一人一人が表現するために、自ら選択・決定した読み方で追究していく。どの追究方法にも価値を見出し、考えを伝え合うことに必要感を感じ、全体交流によって個の追究がさらに深まる姿を目指す。

視点2：個々の学びをつなぐ教師の関わり

○学びを深める焦点化

本時では、それぞれが、自ら選択・決定した読み方で追究を進めていく中、作者である宮沢賢治の生き方や考え方をフィルターとして考える時間を設定する。そのようにすることで、個の追究がさらに深まっていくことをねらう。また、他の読み方にも価値を見出し、さらなる追究意欲を引き出すことができる。

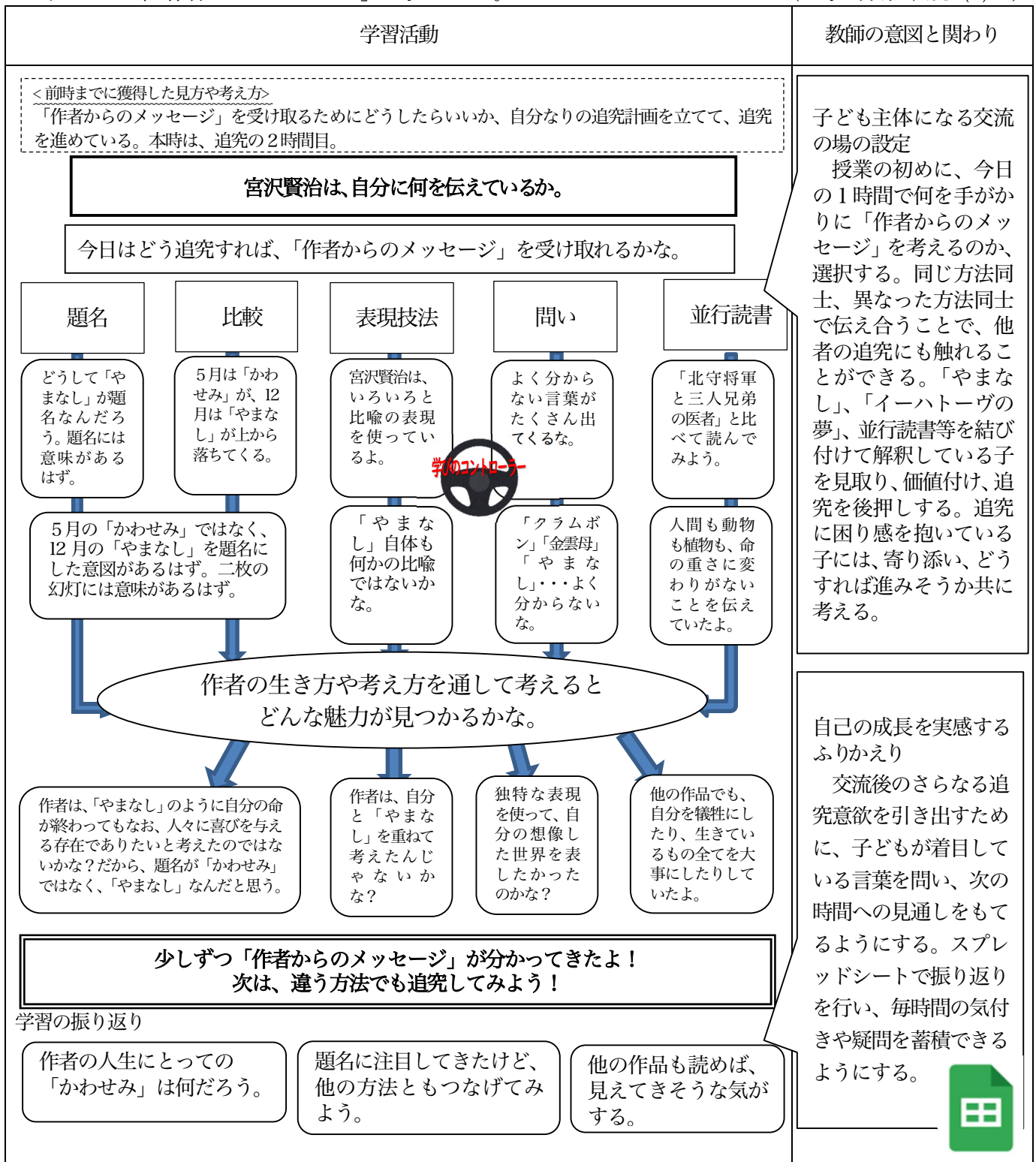
5. 単元構成 (9時間扱い)

①～②		
やまなしを読んでみよう		
「作者からのメッセージ」を受け取るにはどうしたらいいかな。		
まずはいつも通り、登場人物とかを確認したほうがいいね!		
かにの親子が出てくるね!	難しく何を伝えたいのか…。	クラムボンって何だろう。
分からないことがたくさんあった。どんな読み方で「やまなし」を追究していこうかな。		
③～⑤		
「作者からのメッセージ」を受け取るために、どうやって追究すればいいかな。		
作者や題名について考えてみよう!	二つの場面を比較してみたらどうだろう。	宮沢賢治の他の作品も読んでみよう!
追究の計画(3時間)を立てよう!		
自分の追究方法が決まって、見通しをもつことができた。		
⑥～⑨		
どう追究すれば、「作者からのメッセージ」を受け取れるかな。(本時)		
作者の生き方や考え方を通して考えるとどんなメッセージを受け取れるかな。		
作者は自分とやまなしを重ねて…。	独特な表現方法で想像した世界を…。	他の作品でも自分の思いを…。
「作者から受け取ったメッセージ」を伝え合おう!		
お互いの考えを聞いて、より「作者からのメッセージ」を深く考えることができたよ。		

6. 本時の展開 (7/9)

<本時の目標>

自分が選択・決定した方法で追究する活動を通して、作品テキスト内外の言葉を結び付けたり、他者と考えを交流したりしながら、「作者からのメッセージ」を考えている。(思考・判断・表現(Q1)エ)



<学びのつながりを実感した姿>

作品テキスト内外の言葉を結び付けたり、他者と考えを交流したりしながら、「作者からのメッセージ」を考えている姿。